

農作物等の寒害及び雪害等の被害防止に向けた技術対策

令和7年3月18日
飯塚普及指導センター

令和7年3月17日に福岡管区気象台から発表された「暴風と大雪及び落雷に関する福岡県気象情報」によると、18日夕方から19日午前中にかけて山地を中心に大雪となる恐れがあり、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうがあるといった気象情報が出ています。

つきましては、今後の気象情報に留意しつつ、下記の事項等について指導をよろしくお願いいたします。

また、農作業及び農地・農業用施設の見回りには気象情報を十分に確認し、人命を最優先に事故の防止を徹底するよう、併せて注意喚起をお願いします。

なお、その他の対策については、「農業災害技術対策マニュアルと気象災害工夫事例集（平成17年3月）」を参考にして下さい。

【施 設】

- (1) 暖房機及び燃料タンクの点検を行い、故障や燃料切れが起こらないよう随時点検する。
- (2) 被覆フィルムの隙間、破損を点検し、補修を行う。
- (3) かん水施設は、管内の水を抜き、水栓を被覆資材で覆うなどの凍結防止対策を行っておく。
- (4) 強風が予想される場合は、フィルムの浮き上がり防止にマイカー線の増し締めと本数の追加、防風網での被覆を行う。
- (5) 谷やサイドの自動換気用巻き上げが凍結している状態で、急にハウス内温度が上昇した場合、自動換気装置が稼働し、無理に巻き上げようとしてモーターが故障したり、ビニルが破損したりするので、手動に切り替えておく。
- (6) 暖房機がある場合は、降雪開始と同時に設定温度を高めて内カーテンを開き、屋根を暖めて雪の自然落下を図る。
- (7) 暖房機が稼働しても、外気温が急激に低下すると室温が低下するおそれがあるため、室温の確認を行い、生育に必要な温度を確保できるよう、暖房機の温度設定を行う。
- (8) 無加温ハウスの場合は、施設の気密性を高め、内カーテンを開放し、地熱の放射によって室温の上昇とそれによる屋根雪の滑落を図る。

【果 樹】

- (1) イチジクなど耐寒性の劣る樹種、特に幼木については、ワラや防寒用被覆資材等で主枝や主幹部を保護する。
- (2) 貯蔵中のカンキツも低温障害を受けることがあるので、温度管理に注意する。
- (3) カンキツの苗木は寒害を受けやすいため、必要に応じて防寒用被覆資材で被覆する。
- (4) モモ、スモモは開花期を迎えており耐寒性が落ちてきているため、寒害の影響が心配される。 燃焼法、散水氷結法などの対策を取る。その際、燃焼法の対策を行う場合は、周囲に火が移らないよう十分に注意する。

【露地野菜】

- (1) 冷害や低温障害のおそれがあるので、降雪前に収穫可能なものは収穫する。
- (2) 寒風害の対策として季節風の吹く風上や圃場周囲に防風ネットを張る。
- (3) ベタがけ資材などで保温する。
- (4) トンネル栽培では降雪し始めたら早めに除雪を行う。
- (5) 雪解け水の排水に努め、湿害に注意する。
- (6) 雪解け後は地上部病害について早期防除を徹底する。

【畜 産】

- (1) 中山間及び山間地の積雪量が多い地域は、水道や給水器の凍結防止に努めるとともに水道管破裂等に備え可能な範囲で家畜の飲水を確保しておく。
- (2) 積雪に伴う物流の遅延などに備え、予め飼料、燃料などを十分確保する。
- (3) 寒風は家畜の体感温度を下げるため、寒風が直接家畜に当たらないようにカーテンや防風ネットを設置する。特に、幼畜は低温に弱いため、牛では敷料を厚くして哺育房の3方をコンパネ等で塞ぐ等、哺育温度に留意する。また、子豚や雛は給温器による温度確保を行う。